

郷土の誇りを胸に力走

9月6日（日）、県内40市町村のランナーたちが郷土の榮譽をかけ、健脚を競い合う「第23回青森県民駅伝競走大会」が青森市を会場に開催されました。

当町からは、安田照輝さん（1区）、工藤心平さん（2区）、田中智理さん（3区）、市川友昭さん（4区）、寺山優妃さん（5区）、池田大助さん（6区）、佐藤亜海さん（7区）、相馬健佑さん（8区）の8人が町の代表選手として出場。日頃鍛え上げた健脚で鶴田町のたすきをつなぎ、33.8kmのコースを駆け抜けました。

意地と粘りを見せた選手一人ひとりの走りの結果、当町は2時間2分58秒のタイムを出し、町の部で18位の成績を収めました。



△第5区を走る寺山優妃選手（鶴田中2年）



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。

長寿を祝う敬老会

9月15日（火）、国際交流会館で敬老会が開かれ、出席した約300人が長寿を祝いました。

開会にあたり、相川町長は「皆さまの豊富な経験と知恵をまちづくりのために発揮し、健康と笑顔の絶えない日々が末永く続いてほしい」とあいさつ。続いて、最高年齢長寿ご夫婦の長谷川久雄さん・ミエさん（米元）、88歳の米寿を迎えた28人の方々に顕彰状が贈られ、100歳を迎えた下山きせさん（大巻）には、内閣総理大臣祝い状と青森県知事顕彰状が手渡されました。

町では9月17日現在、100歳以上の男性が1人、女性が3人おり、今年度中には、女性5人の方々が100歳を迎える見込みです。



△内閣総理大臣祝い状を伝達された下山きせさん（右）

鶴の舞橋が幻想的な空間に

9月21日（月）、つるた街プロジェクト（岡詩子代表）が、富士見湖パークで「星空のキャンドルナイト」を開催しました。当日は、多くの家族連れやカップルらが訪れ、鶴の舞橋周辺に並べられた約800個のキャンドルの明かりで彩られた幻想的な空間を楽しんでいました。

会場では、色とりどりの小瓶やコーヒーカップなどの入れ物の中で輝くキャンドルの炎が、隅々に置かれた切り絵や小物などと相まって、ファンタジーな空間を演出していました。ほかにも、イベントでは、スチューベンを使ったクレープや手作り小物を販売。当町出身のアーティストによるライブやマジックショーなども行われました。



△色とりどりに輝くキャンドルの炎を見つめる子ども



△ずっしりと実ったスチューベンを収穫する園児たち

スチューベンをもぎとり

町が作付け面積、生産量とも日本一を誇るスチューベンが収穫期を迎え、町内の観光ぶどう園7か所が9月29日（火）から開園しました。

前日の28日には、鶴田中央保育所の園児9人が津軽ぶどう協会の成田義弘会長の畑でスチューベンのもぎとり体験をしました。園児たちは、ずっしりと実った房をはさみを使って丁寧に収穫すると、早速一粒ずつ口に運び、「甘い」「おいしい」ともぎたての味を楽しんでいました。

成田会長によると、今年のスチューベンは糖度が20度以上と例年よりも甘く仕上がりに、最高の出来とのこと。観光ぶどう園は10月18日（日）までとなっています。

町を世界のはげの聖地へ

「中秋の名月」にあたる9月27日（日）、ツル多はげます会（須郷貞次郎会長）の秋の例会「中秋の有多毛」が山田温泉で開かれました。

会場では、頭に吸盤を付けて引っ張り合う「吸盤綱引き」や、月に見立てた頭が誰の頭なのかを当てる「名月当てクイズ」などの催しが行われたほか、町をはげの聖地にしようとする試みの一つとして「けがなし」のご利益を願うご神像への「御魂入れ」も行われました。ご神像は、鶴田八幡宮の境内の一角に「はげ神社」を建立し、誰でも神社を拝みに来れるようにする予定とのこと。

また、11月14日（土）に当町で吸盤綱引きの全国大会を開催することが発表されました。



△ご神像（中央）へ「ますます頭が磨かれるように」と願う須郷会長